

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(9月14日～9月20日)

2021年9月22日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- プーチン露大統領との電話会談(9/14)
- チハノフスカヤ民主勢力代表のフランス訪問(9/15-18)
- 集団安全保障条約機構(CSTO)首脳会合の開催(9/16、ドゥシャンベ)

【ルカシェンコ大統領動静】

●プーチン露大統領との電話会談(9/14)
・両首脳は、9/10-16 にかけて実施されたベラルーシ・ロシア共同軍事演習「ザーパド 2021」の総括とアフガニスタン情勢について議論を交わした。

・両首脳はまた、9/16日に開催される集団安全保障条約機構(CSTO)首脳会合における議題や、予定されている国際行事へのプーチン露大統領のオンライン形式での出席についても言及した。プーチン露大統領は、周囲の人々の中から新型コロナウイルス感染者が出たため自己隔離に入っており、近日中に予定されるCSTO や上海協力機構(SCO)の首脳会合などにはビデオ会議形式で出席する。

(9/14 大統領府、ベラパン通信)

●グロドノ市の病院改修のためのクウェートの基金からの融資に関する大統領決定に署名。

当該大統領決定は、グロドノ市第3臨床病院敷地内で進行中のグロドノ州臨床腫瘍診療所の建設に、クウェートのアラブ経済発展基金からの750万クウェート・ディナール(約2,500万USD)の融資を受けるもの。同診療所では、世界標準の外科的手法と化学放射線療法を組み合わせた治療や放射性核種を用いた診断が行われる。

(9/14 大統領府、ベラパン通信)

●13人の恩赦に関する大統領決定に署名。

恩赦の対象となるのは、ババリコ元大統領候補らが企てたとされる抗議活動の関係者とされる100人のうちの13名。オリガ・チュプリス大統領府副長官による

と、13名のうちの殆どはインターネットを使って犯罪に関与した者で、彼らは自らの行いを真摯に反省し、インターネットが犯罪を助長することについて十分理解していなかったと語っていたとのこと。

(9/15 国営TV「ベラルーシ第1チャンネル」)

●ウクライナのドネツク州の児童をベラルーシの保養施設「ズブリョーノク」に招待するよう指示。(当館注:同州は2014年4月に親ロシア派が「ドネツク人民共和国」の樹立を宣言し、現在もウクライナ政府管理地域と被占領地域が混在する。)

大統領報道局は、「大統領の本決定は、ベラルーシの一貫した平和愛好的な対外政策の方針、並びに配慮と支援を必要とする子供たちに対する人道主義と善意の理想を堅持することを強調するものである。」と発表。計画では9/15-10/5までの日程でドネツク州から児童を保養施設に招待するとされるが、同州のいずれの地域から児童が来訪するかについては発表されていない。

(9/15 大統領府、ベラパン通信)

●集団安全保障条約機構(CSTO)首脳会合に出席。(9/16、ドゥシャンベ)

ルカシェンコ大統領は要旨以下を発言。

・世界的な緊張が、力による紛争解決のリスクを形成しつつある。

・CSTO加盟国国境付近におけるNATOの活発な動きが、軍事的挑発や事案発生条件を作り出している。

・不法移民対策は、NATOがCSTO加盟国に対するハイブリッド工作を目的として各組織を使うための口実と

なった。

(9/16 大統領府、ベラパン通信)

●ライプシー・イラン大統領との会談

・両者は 9/16、CSTO 首脳会合の開催地であるドゥシャンベで会談。

・ルカシェンコ大統領は、「ベラルーシは常に制裁下に置かれてきたが、制裁はそれを導入した者達に如何なる効用ももたらさなかった。イランの場合と同様に。」と発言。

・ライプシー大統領は、「ベラルーシは社会経済の発展を成功させており、それは外部からの圧力に対処し、あらゆる困難を首尾良く克服しているということだ。」と応じた。

(9/16 大統領府、ベラパン通信)

●カーン・パキスタン首相との会談

・両者は 9/16、ドゥシャンベにて会談。

・ルカシェンコ大統領は、年内にマケイ外務大臣がパキスタンを訪問予定である旨述べた上で、両国政府間委員会会合を開催することで、あらゆる分野での両国間のコンタクトが活発になる旨付言。また大統領は、カーン首相にベラルーシを訪問するよう招待。

・カーン首相は、両国関係が長年にわたって続いており、特に農工業分野で協力がある旨指摘。同首相は、ベラルーシ代表団の訪問が、両国の協力関係にプラスになることに期待を表明。

(9/16 大統領府)

●愛国勢力フォーラム「一致の象徴」に出席

大統領は要旨以下を述べた。

・1939 年まで、ベラルーシ西部はポーランドの占領下にあった。1939 年 9 月 17 日(当館注:モロトフ・リッベントロップ協定により、ソ連とナチドイツがポーランドを分割した日)に、ベラルーシは再び統一された。

・国民統一の年である 2021 年に、9 月 17 日を国家の祝日とすることが提案され、大多数のベラルーシ人から支持された。この日は長らく、国家の主権・国民の統一・祖国の地の平和を守るという誓いの日であった。

・(ポーランドの)ヴァウィストク、(リトアニアの)ビリニユ

スモベラルーシの土地である。

(9/17 大統領府)

●高官人事

9/20、ルカシェンコ大統領は、デニセンコ駐タジキスタン大使、ルカシェヴィチ駐ブラジル大使、チェルネツキー駐韓国大使を任命し、グロマダ文化第一次官、サラカチ文化次官、パヴリチェンコ労働・社会保障第一次官等の人事を承認。

(9/20 大統領府)

【外交】

●集団安全保障条約機構(CSTO)の外相評議会、国防相評議会、安全保障評議会初期委員会の合同会議が開催(9/15、ドゥシャンベ)

タジキスタンの首都ドゥシャンベで 16 日開催される CSTO 首脳会合を前に、当該合同会議ではバイオセーフティ、医療確保、軍人及び平和維持活動の人員要請について議論された。

(9/15 国防省、ベラパン通信)

●フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長、ベラルーシからの移民の不法越境を「欧州を不安定化させるためのハイブリッド攻撃」と非難。

同委員長は、要旨以下のとおり発言。

「人々は両替用の小銭ではない。我々の対ベラルーシ国境で起こっていることに目を向けてほしい。ベラルーシ当局は、人々を利用した。人々を飛行機に乗せ、文字通り欧州との国境に押しやった。こうしたことには黙っていられないし、欧州の迅速な対応がそれを示すことになる。我々はリトアニア、ラトビア、エストニアと共にあり続ける。そのことは確信していただきたい。」

(9/15 ベラパン通信)

●ル・ドリアン仏外相がベラルーシ民主勢力への連帯を改めて表明。

ジャン=イヴ・ル・ドリアン仏外相は 9/15、チハノフスカヤ民主勢力代表と会談。同外相は、ベラルーシ市民への連帯を表明し、「我々の連帯は、ミンスク、ビリニユス、ワルシャワのベラルーシ市民社会への支持も示してい

る。連帯を示すこともまた強力な制裁である。」と発言。

同外相は、会談後に公開したビデオメッセージで、「ベラルーシ国内で行われている抑圧も、欧州の利益を不安定化させる行動も、ベラルーシ当局の政治的正当性をもたらすことはない。政治対話と、国際監視の下での自由で公正な選挙が行われた後にしか、正当性は生じない。」と発信した。

(9/16 ベラパン通信)

【内政】

●非政府系団体・個人に対する捜査・閉鎖等

9/14

・文化センター「コルプス」のアレクサンドル・ボクダノフ代表(DJ ララ・ヴォ)と演出家のマクシム・クルク氏らが刑法第 342 条(社会秩序を攪乱する集団行動の組織または当該行動への積極的関与)に係る容疑で拘束されていることが判明。

9/17

・ブロガーのルスラン・リニンカ氏がルカシェンコ大統領及び当局代表者に対する誹謗中傷と侮辱の罪で懲役 4 年の実刑判決。

9/19

ジャーナリストでグロドノに拘留中のデニス・イヴァーシン氏が新たな罪状で起訴されることが判明。同氏は恩赦を嘆願する手紙を書くことを拒否したと報じられている。

(9/14~20 ベラパン通信)

●最高検察庁が、2020 年 11 月に抗議活動中に拘束され内務局に連行された後死亡したロマン・ボンダレンコ氏の事件の捜査打ち切りを決定。

検察当局は、ボンダレンコ氏の死亡に関して起訴すべき人物がない」との理由で捜査を打ち切った。同氏の死を巡っては、同氏の血液中からアルコールが検出されなかった旨の報道記事に関わった医師とジャーナリストが逮捕・起訴され有罪判決を受ける等している。

(9/17 ベラパン通信)

【治安・軍事】

●ベラルーシから周辺国への不法移民の急増

・9/14~20 にかけてベラルーシからポーランド、ラトビア及びリトアニアへの不法入域を試みた人数は、平日は各約 240~300 人。週末は計約 700 人。

・9/17、ビロタイテ・リトアニア内務大臣がカミンスキ・ポーランド内務大臣と会談し、これまでリトアニアの対ベラルーシ国境では 2,500 人以上の不法移民を阻止したと述べ、ベラルーシ当局は不法移民を越境させる新たな手法を探しているとして、EU として早急に措置を取る必要性を指摘。

・9/19、ポーランドの国境警備局が対ベラルーシ国境付近で 3 人の遺体を発見したと発表。

(9/14~20 ベラパン通信)

【経済】

●ブリティッシュ・アメリカン・タバコ(BAT)が、ベラルーシ国営「グロドノたばこ工場「ニューマン」」(GTF)での自社製品の生産停止を発表。

GTF の年間生産量は 285 億本で、うち 37 億本が BAT ブランドの製品。制裁により、欧州からたばこの原材料を調達できなくなったため、GTF はベラルーシ・ロシア・中国等の代替調達先を模索している。

また、フィリップ・モリス社も、ルカシェンコ大統領に近いとされる企業が独占販売している自社電子たばこ「Iqos」のベラルーシでの販売停止を発表。

(9/14 Zerkalo.io)

●ベラルーシ国立銀行役員、経済制裁下でもベラルーシの銀行セクターは十分に安定的と発表。

・国立銀行役員で同行金融市場オペレーション制御総局長のデニス・ゴレグリアド氏によると、国内通貨による決済に移行する経済主体が増えていることについては、制裁とは無関係に見られる傾向であり、対外貿易において既に輸出の 36%、輸入の 50%が米ドルまたはユーロ以外の通貨で決済されている。中国元による決済は増加傾向にあるものの規模は依然として小さく、それは中国元による決済が大幅に増加する潜在的可能性を示すもの、とのこと。

(9/14 ベラパン通信)

●リトアニアの送電事業者 Litgrid が、リトアニア・ベラルーシ間を繋ぐ送電網の送電容量を引き下げ。

・当該引き下げは、9/13 にリトアニアの国家エネルギー規制評議会 (VERT) が同国とベラルーシの電力システムを繋ぐ送電網の最大容量引き下げを承認したことを受けた措置。

・ロカス・マスユリス Litgrid 社長は、「本措置の適用初日となった 15 日、ベラルーシからリトアニアへの送電容量の最大値は(従来の 1,250MW から)262MW となった。」旨発表。同社によると、新方式の下では適切な送電容量が毎日算定され、国内の電力システムの安定性を保つ上で不可欠な電力はリトアニアに流入することが確保される。同時に、ベラルーシのオストロヴェツ原発で生産された電力のリトアニア流入は制限される。(9/15 ベラパン通信)

【抗議勢力の動き】

●「自由選挙のための権利擁護者達」運動が、ジョージア中央選挙管理委員会に対して、10/2 実施のジョージア地方選挙の国際監視員としてのエルモシナ・ベラルーシ中央選管委員長及び同委員会メンバーの登録を解除するよう呼びかけ。

同運動代表者らは、「現在の状況下でエルモシナ委員長及びベラルーシ中央選管委員らを選挙監視のために招待することは容認できず、実質的にジョージアの中央選管をはじめとした国家機構がベラルーシの(大統領)選挙における投票結果の改ざんを支持することを意味する。」と声明。

(9/14 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ民主勢力代表のフランス訪問(9/15~18)

同訪問はジャン=イヴ・ル・ドリアン外相の招待によるもの。チハノフスカヤ代表は、ル・ドリアン外相の他、ローラン・ファブリウス憲法評議会議長、アンヌ・イダルゴ・パリ市長、ジェラルド・ラルシェ元老院(上院)議長、フランソワ・バイル議会外務委員長、オランド前大統領らと会談。ベラルーシの危機解決のためのハイレベル会議の開催やベラルーシ民主勢力による東方パートナーシップ首脳会合への参加、対ルカシエンコ政権追

加制裁について協議した。

また、在フランス・ベラルーシ人の代表者らとの面会やパリ政治学院で学生に対して講演を実施した。

(9/14-18 チハノフスカヤ氏公式サイト、ベラパン通信)

●ババリコ元大統領候補が服役中の刑務所における労働条件悪化に直面。

14 年間の自由剝奪刑を受けてヴィテプスク州ノヴォポロツクの第1刑務所で服役中のババリコ氏は、8 月は週 6 日間、所内のパン工場のボイラー係として勤務していた。9 月の第 2 週に、ババリコ氏は当該労働に関する資格審査を受けたが、その翌日にはパン製品の箱詰め係に変更となった。これにより同氏は、ボイラーが切られている時でさえ気温が 30 度を超える工房内で勤務することとなり、同氏がその役職に就く前は工房の窓を開けることが許可されていたが、同氏の勤務開始後は窓を開けることも禁止されている。

ババリコ陣営は「弁護士らが然るべき機関にパン工房内の労働条件を検証するよう申し入れる意向である」旨発表した。

(9/14、ババリコ陣営 Facebook ページ、ベラパン通信)

【その他】

●保健省、ベラルーシにおける新型コロナウイルス・ワクチン「スプートニク V」の有効性は 97.2%と発表。

有効性評価は必要な接種回数を完全に了した 86 万人を対象に実施された。ベラルーシ国内ではスプートニク V 接種後の重篤な副反応は報告されておらず、ワクチンと因果関係のある死亡例も登録されていない。

ベラルーシではこれまでスプートニク V と中国製の Vero Cell の 2 種のワクチンが使用されており、177 万 5000 人が少なくとも一回のワクチン接種を受けており、そのうち 148 万 2000 人が必要な回数を接種し終えている。

(9/15 保健省)

●保健省、ベラルーシにおける COVID-19 による 1 日の死者数が 5 日連続で最多を更新と発表。

9/14 の COVID-19 による死者は 12 名で、5 日連続で過去最多となった。

(9/15 保健省)

●保健省、9/17のCOVID-19新規発症者数が過去最高を更新して1,986名となったと発表。

(9/18 保健省)

(了)